

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846  
鳥取市扇町21番地  
東教発 H31.1.7 No.153  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 未来志向で道を拓こう

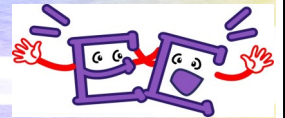
局長 吉川 誠司

明けましておめでとうございます。東部教育局は、子どもたちの健やかな成長を願い、直面する教育課題に対して市町教育委員会と協働、学校と連携し、気持ちを新たに取り組む所存でございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、平成30年度もいよいよ最終段階となりました。本年度の振り返りとともに、来年度に向けた新たな「挑戦」の準備の時です。振り返りでは、教育目標の達成できたこと、できなかったことを明らかにし、できなかった原因の分析をもとに、できなかった理由だけではなく、できるためにはどのような手をどのように打つのか、アイデアをチームの力で捻出していくことが大切です。

最近よく「リフレーミング」という言葉を聞きます。「リフレーミング」とは、「ある事実に対して与えている意味づけを変え、異なる見方で捉え直すこと（三省堂 大辞林より）」です。これまでの枠組みを外して発想をポジティブなものに転換し、捉え直すことで、解決策や新しいアイデアが生まれるのではないのでしょうか。

個のもてる力を集結させ、組織の力をもって、未来志向で発想を転換し「挑戦」し続けたいものです。



## 子どもがつながり 教員もつながる研究体制の構築

鳥取市立美保小学校



美保小学校は、「心と行動がともなった子どもを育てたい」という思いを「笑顔とやる気にあふれた子どもの育成」という研究主題に込めて、道徳科と特別活動を核とした研究を進めています。大規模校の強みを生かし、若手教員の育成も念頭に置きながら、教職員が一体となって取り組んでいます。

### 教員と教員をつなぐ

#### 授業研究会のコーディネートを全員が経験

- 事前研究会、模擬授業、事後研究会等の日程調整、声かけ
- 事後研究会の概要の発信

日	教科	学年・組	授業者	コーディネーター
7月13日(火) 2校時	道徳	ひまわり	松本 綾教諭	
9月19日(水) 2校時	道徳	6年2組	田村卓真教諭	俊先生
9月28日(金) 5校時	道徳	こすもす	橋本博志教諭	松本校先生

#### 教材研究を深める模擬授業や他学級での実践

- よりよい展開、思考を深める切り返しの発問等について話し合い、授業研究会当日を迎える
- みんなで授業を創り上げる



### 子どもと子ども

#### 子どもと教員をつなぐ

#### 「美保小版 子どもの発言をつなぐ教師の言葉」の作成

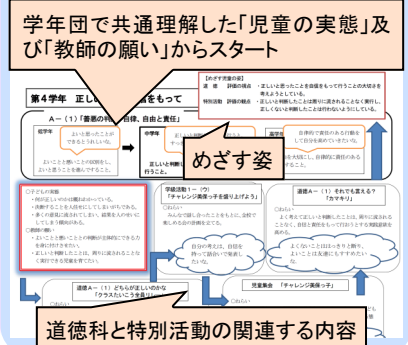
- 子どもの発言をつなぐため、また教員が子どもの発言内容に敏感に反応できるようにするための工夫
- 研究授業の中で有効だった声かけについて、研究協議の中で話し合い追記していく

◎考えを深めさせる 言葉かけ	・なぜ? ・何で? ・どうして? ・どういう意味? ・どういうこと? ・理由は? ・もう少し教えて。 ・もう1回言ってみて。 ・ちょっと考えてみよう。
◎考えを広めさせる 言葉かけ	・たとえたら・・・ ・たとえば・・・ ・それでは? ・どう思う?
◎考えを全体に広める 言葉かけ	・今のわかった? ・意味わかりましたか? ・誰かわかった人いる? ・〇〇さんが言ったこと説明してくれる? ・〇〇さん、どう思った?

### 学習内容をつなぐ

#### 道徳科と特別活動の関連を明確にした構想表の作成

- 道徳科で培った豊かな心を特別活動の場で実践、特別活動での豊かな体験を道徳科の学びに活かす



★任され、認められることで、教員の意欲が向上する ★他者から学ぶ姿勢、教え合う姿勢が、協働を生む

美保小学校は、26学級の大規模校ですが、担任外の教員も研究授業を行い、指導力向上に努めています。めざす子ども像の実現のために、取り組む教職員の意気込みが揃うと、学校を動かす力も大きなものとなります。全職員が参加できる研究体制を構築することは、職員の主体性や協働性を育むと同時に、研究主題の具現化が促進され、結果として、子どもたちが安心して学び合える学校を創ることにつながっていきます。

## 通常学級と通級指導教室との連携

通級指導教室は、障がいによる学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした指導を、児童生徒の教育的ニーズに応じて行う教室ですが、その指導内容が通常学級での学習や生活に生かされることがとても大切です。そして、そのためには、通常学級と通級指導教室との密な連携が欠かせません。指導目標に基づいて互いの役割を確認し、それぞれの学びの場でどのような指導を行っていくのかを共通理解し、実践していくことが求められています。

## 通級指導教室に入級している児童生徒についての連携

## 実践例：感情のコントロールが難しく、些細なことで暴言をはいてしまう小学校3年生の児童への指導

## 通級指導教室での指導

自分の気持ちの理解、気持ちの切り換え方などを学習。自分に合う気持ちの切り換え方を考え、実際に練習する。そして、いつでも必要な時に思い出すことができるように、切り換えのための方法を記したカードを筆箱に入れる。

## 通級指導教室での指導

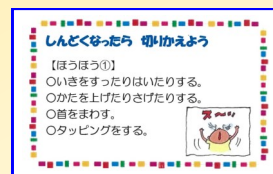
担任からの情報と照らし合わせながら本人の振り返りを行い、できたことをしっかりほめる。

## 通級の指導内容を通常学級で生かす

気持ちの切り換えが必要な場面で、担任が声をかけ、カードを見ながら切り換えられるよう支援する。切り換えが上手にできたときには、しっかりほめる。1週間の様子を通級指導教室担当者や家庭に伝える。

連携

連携



筆箱に入れているカード

通級指導教室担当者と通常学級担任の連携は、機を逸せず、こまめに行っていくことが大切です。学びの連続性を意識して取り組んでいきましょう！

継続的な支援によって、自分で気持ちの切り換えができるようになり、徐々に落ち着いて生活できるようになった。

## 通級指導教室に入級していない児童生徒についての連携

通級指導教室に入級していない児童生徒についても、通級指導教室担当者と連携を図り、個に応じた支援を行うことができます。



## 実践例：漢字の書きが定着しづらい児童への指導

## 校内での話合い

諸検査等による実態把握から、通常の学習だけでは定着が難しいと考えられた。特別支援教育主任を中心に校内委員会で話し合い、個に応じた支援を行っていくことを確認した。

## 通級指導教室の取組に学ぶ

特別支援教育主任が、同じ町内の通級指導教室に出向き、通級指導教室で行っている指導方法や教材の工夫等について尋ねた。家庭学習についても相談し、助言をもらった。



紹介してもらった教材の一例

## 個に応じた指導方法を実践

特別支援教育主任が、個に応じた指導方法や家庭学習について提案。本人・保護者と話し合い、通級指導教室の教材等にも取り組んでいくことになった。本人に合った家庭学習であり、意欲的に取り組んでいる。

通級指導教室における学びを、日々の学習や生活の中で活用し定着させていくのは、通常学級担任の役目です。通級による指導は、通常学級との連携プレーがあってこそ、その効果が高まります。また、上記の実践例のように、通級指導教室で行われている指導方法や教材・教具等の工夫は、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒へも有効です。通級指導教室に蓄積されている指導方法の工夫等を自校に取り入れ、それぞれの学校における支援の充実を図りましょう。

社会教育  
コーナー



# PTA研修会を通しての保護者同士の学び・仲間づくり

県教育委員会では、充実したPTA研修会となるようファシリテーター（進行役）派遣事業を行っています。県教育委員会が作成した「とっとり子育て親育ちプログラム」「人権教育プログラム綴」を使い、ファシリテーターの進行のもと、今年度もたくさんの園や学校で研修会を行っています。話を聞くだけの研修会ではなく、具体的な事例をもとにみんなと楽しく話し合える参加型の研修であり、保護者同士の学びのほかに仲間づくりも行えます。「人権教育プログラム綴」を活用した賀露小学校の研修会を例に紹介します。

賀露小学校PTA人権教育部主催の研修会より  
「今、子どもに伝えたいこと」（自尊感情を育む）

**アイスブレイク**

緊張をほぐすために、じゃんけんゲームをする。自己紹介もしながら行う。



**アクティビティ**

6つの表情から思い浮かぶわが子のエピソードを付箋に書く。



**アクティビティ**

エピソードを話しながら付箋を模造紙に貼っていく。  
例：③の表情からのエピソード  
「進んで手伝いをしてくれたのでお礼を言った。」

**アクティビティ**

他のグループの意見を見て回り、いいなと思う言葉かけにシールを貼る。



**アクティビティ**

模造紙に貼られた言葉かけから自尊感情を育む言葉を探す。

**アクティビティ**

出したエピソードに対して、どんな言葉かけをしたのか付箋に書き、模造紙に貼る。  
例：「ありがとう。〇〇ちゃんのおかげで助かるな。」

**まとめ**

「とっておきの言葉」（明日から使っていきたい言葉）をグループで考え、ファシリテーターがまとめる。



**保護者からの感想**

- ついついダメと叱ってしまい、子どもを認める言葉かけや行動をもっとしていくことが必要だと思いました。
- 怒ることはよくあるけれど、褒めていないなと改めて感じました。褒める、一緒に何かするというを増やしていきたいです。
- 子どもへの声かけ、対応、共感、傾聴を心がけていますが、兄弟がいて…、家事をして…となるとなかなか難しいですが、改めて言葉かけの大切さを確認できました。

**教職員からの感想**

- 普段話す機会のない保護者ともコミュニケーションができてよかったです。
- 学校では見えない家での様子を伺うことができました。
- クラスの子の顔を思い浮かべながら考えることができました。

**他のプログラムのタイトル（一部掲載）**

- 「とっとり子育て親育ちプログラム」
- わが子のイライラ、どうするの？
- 「10秒の愛」で子どもを幸せに etc
- 「人権教育プログラム綴」
- いじめ「あなたはどのように考えますか？」
- 保護者としてどうする？ etc



小中学校課・人権教育課のHPから閲覧できます。  
※「とっとり子育て親育ちプログラム」は、各学校に配布してあります。

参加型研修会は、自分自身を振り返ったり、他の保護者の意見を参考にしたりして、子どもとの関わりについて具体的に考えることができます。保護者も教職員も、日常生活でじっくりと子どもについて考える時間は取りづらいものです。だからこそ研修会を充実させ、具体策を1つでも持ち帰ることで子育てや教育に生かすことができます。保護者も教職員も学び、つながることで家庭と学校が協働し、一緒に子ども達を育てていきましょう。